

平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社パピレス

 コード番号 3641 URL <http://www.papy.co.jp/info/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 松井康子

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務・経理部長

(氏名) 須永喜和

TEL 03-3590-9460

四半期報告書提出予定日 平成27年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	6,278	24.5	542	17.9	589	18.1	378	21.3
26年3月期第3四半期	5,043	23.2	460	61.7	499	57.7	311	56.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	150.29	150.07
26年3月期第3四半期	124.11	122.87

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	自己資本比率	%
27年3月期第3四半期	4,800		2,945		61.2	
26年3月期	4,293		2,661		62.0	

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 2,936百万円 26年3月期 2,661百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,268	19.5	502	△23.9	524	△25.1	338	△22.0	133.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	2,581,720 株	26年3月期	2,581,720 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	86,988 株	26年3月期	45,888 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	2,518,836 株	26年3月期3Q	2,513,810 株

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、景気の緩やかな回復基調が続きましたが、個人消費等に弱い動きも見られます。企業収益及び各種調査による企業の業況判断は、おおむね横這いとなっています。

通信端末の市場環境は、従来型携帯電話の契約数が減少する一方で、スマートフォンの普及が進んでいます。株式会社MM総研によれば、平成26年9月末の端末契約数は、スマートフォンが6,248万件（前年度末比514万件増）、携帯電話が6,176万件（前年度末比292万件減）となっています。同社は、平成31年3月末のスマートフォン契約数は、1億300万件に達すると予測しています。

また、タブレットの出荷台数が、前年同期比で増加しています。株式会社MM総研によれば、平成26年4月～9月のタブレットの出荷台数は、413万台（前年同期比20.8%増）となっています。同社は、平成30年度通期のタブレットの出荷台数は、1,330万台と予測しています。

電子書籍の市場環境は、新プラットフォーム（スマートフォン、タブレット等）向け電子書籍市場が、前年に引き続き、急速に拡大しています。株式会社インプレスビジネスメディア「電子書籍ビジネス調査報告書2014」によれば、平成25年度の電子書籍市場規模は、936億円（前年度比28.3%増）と推計されています。新プラットフォーム向け市場が、789億円（前年度比114.4%増）、携帯電話向け市場が、140億円（前年度比60.0%減）となっています。同社は、平成30年度の電子書籍市場規模は、平成25年度の2.9倍の2,790億円程度になると予測しています。

当社を取り巻く事業環境は、大手企業の参入をきっかけとして、競争が激化しています。この結果、掲載コンテンツの需要が増加し、出版社等のコンテンツホルダーからの仕入コスト上昇のリスクが高まっています。また、集客を強化するための広告宣伝や販促コストも増加傾向となっています。

このような環境の中で、当社は、顧客第一主義のもと、サービスの向上と差別化によって、売上高を伸ばすとともに、収益体質の改善に努めています。

売上原価については、コンテンツホルダーへのきめ細かな営業活動によって、これまでの仕入コストの比率を維持し、その上昇リスクを抑制しました。販売費及び一般管理費については、広告宣伝や販促のコストは増加したものの、効率化を目的とした、継続的な内容の見直しを行っています。

この結果、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高は6,278百万円（前年同期比24.5%増）、営業利益は542百万円（前年同期比17.9%増）、経常利益は589百万円（前年同期比18.1%増）、四半期純利益は378百万円（前年同期比21.3%増）となりました。

当社の事業は電子書籍事業のみであり、事業所も本店のみとなっているため報告セグメントはありません。以下、事業の業績を示すと次のとおりであります。

<電子書籍事業>

①本店による電子書籍販売

当第3四半期累計期間においても、引き続き3P（プロモーション・プレイス・プロダクト）戦略による販売拡大を図りました。プロモーション戦略とは、広告やポイント付与等を用いた集客施策を指し、プレイス戦略とは、サイト改良やサイトを利用する上での、サービス内容改良等によるユーザー利便性の向上施策を指し、プロダクト戦略とは、掲載冊数拡充などのコンテンツ施策を指します。

プロモーション戦略としては、効果の高い広告の選定やポイント付与施策等、購買に結びつく集客に注力しました。Twitter、Facebookを活用してのPR企画も行っています。また、累計販売冊数1億冊突破記念として、新規入会者にポイントを付与する、「最大1億円分入会キャンペーン」を実施しています。

プレイス戦略としては、サイト改良を実施し、使いやすいサイト構築、電子書籍を閲覧しやすい仕組みづくりを行いました。また、ビジネスパーソン向けの新しい電子書籍サイト「パピレスプラス」の開始や、「電子貸本Renta!」のサイト更新頻度の増加を行っています。海外展開として、英語圏及び中国繁体字圏への展開強化のため、海外版「電子貸本Renta!」のサイト改良に注力しています。

プロダクト戦略としては、コミック、小説・ノンフィクション、ビジネス書、趣味実用書等、幅広いジャンルの書籍を入荷しました。講談社作品の取扱を開始し、アニメで人気を博した「進撃の巨人」や、実写映画化した「寄生獣」等を掲載しています。

また、他社との差別化戦略として、当社独自コンテンツの開拓にも注力しています。コミックを動的演出で見せる「コミックシアター」に音声を加えたフルボイス版の配信、出版社との共同制作や、電子書籍作品投稿サイト「upppi」にて、「ライトノベルコンテスト」や「恋愛小説コンテスト」を開催する等、オリジナルコンテンツ配信を進めています。海外展開として、コンテンツ翻訳も行っています。

この結果、当第3四半期累計期間における本店による電子書籍販売の売上高は6,046百万円（前年同期比24.2%増）となりました。

②提携店を通じた電子書籍販売

ヤフー株式会社、Amazon社等のポータルサイトやECサイトとの提携による、電子書籍委託販売や取次販売を行っております。また、海外のインターネットサービス会社と提携し、海外への販売活動を行っています。

この結果、当第3四半期累計期間における提携店を通じた電子書籍販売の売上高は215百万円（前年同期比25.0%増）となりました。

③その他

電子書籍の図書制作売上、自社制作コンテンツのロイヤリティ収入等を計上しております。

この結果、当第3四半期累計期間におけるその他の売上高は16百万円（前年同期比332.8%増）となりました。

（注）「Twitter」は、Twitter, Inc. の商標です。

「Facebook」は、Facebook, Inc. の商標です。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前事業年度末と比べて、495百万円（12.0%）増加し、4,615百万円となりました。

主な増減内容として、現金及び預金が515百万円増加、売掛金が45百万円増加、有価証券が63百万円減少しています。

固定資産は、前事業年度末と比べて、11百万円（6.5%）増加し、185百万円となりました。

主な増加内容として、投資その他の資産が11百万円増加しています。

なお、当第3四半期累計期間において、重要な設備の新設および除却はありません。

この結果、資産合計は、前事業年度末に比べて、506百万円（11.8%）増加し、4,800百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末と比べて、223百万円（13.7%）増加し、1,854百万円となりました。

主な増減内容として、買掛金が105百万円増加、未払金が175百万円増加、未払法人税等が116百万円減少しています。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べて、223百万円（13.7%）増加し、1,854百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前事業年度末と比べて、283百万円（10.7%）増加し、2,945百万円となりました。

主な増加内容として、四半期純利益378百万円の獲得を計上しています。

この結果、自己資本比率は、61.2%（前事業年度末62.0%）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期の業績予想につきましては、売上高は8,268百万円、営業利益は502百万円、経常利益は524百万円、当期純利益は338百万円を予想しています。

今後の電子書籍市場は、スマートフォンやタブレット向けを中心に、拡大が予測されています。その一方で、関連大手や、その他様々な分野の競合他社が乱立し、競争が激化しています。このような事業環境において、当社は、中長期的な成長を意図して、積極的な先行投資として、オリジナルコンテンツ制作や海外向けコンテンツ翻訳、プロモーションの強化等を実施し、シェアの拡大を図っています。

今後、ユーザー層の拡大を目的として、当事業年度において、TVCM広告の実施を予定しています。

当社は、TVCM広告の投資効果（ユーザー層の拡大やブランドイメージの向上等）は、即効性があるものではなく、中長期的に売上、利益に貢献するものと考えています。そのため、当事業年度については、当該施策による売上及び利益の増加を見込まず、費用のみ先行して発生する計画を採用しており、当第3四半期累計期間では、前年同期比で増収、増益となっておりますが、平成26年5月14日の決算短信で公表した通期の業績予想を変更していません。

なお、上記業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくため、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,775,962	3,291,934
売掛金	959,727	1,004,768
有価証券	245,639	182,268
コンテンツ資産	2,383	1,053
その他	139,894	139,602
貸倒引当金	△3,917	△4,563
流動資産合計	4,119,690	4,615,064
固定資産		
有形固定資産	6,545	5,909
無形固定資産	234	1,184
投資その他の資産	167,151	178,190
固定資産合計	173,931	185,284
資産合計	4,293,621	4,800,349
負債の部		
流動負債		
買掛金	735,942	841,345
未払金	379,653	555,199
未払法人税等	194,488	77,660
賞与引当金	27,222	19,308
その他	294,458	361,320
流動負債合計	1,631,765	1,854,834
負債合計	1,631,765	1,854,834
純資産の部		
株主資本		
資本金	414,462	414,462
資本剰余金	189,389	189,389
利益剰余金	2,105,383	2,471,256
自己株式	△47,379	△138,984
株主資本合計	2,661,856	2,936,124
新株予約権	—	9,390
純資産合計	2,661,856	2,945,514
負債純資産合計	4,293,621	4,800,349

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
売上高	5,043,308	6,278,809
売上原価	2,069,127	2,582,847
売上総利益	2,974,180	3,695,962
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	1,616,640	2,097,039
代金回収手数料	424,520	490,767
貸倒引当金繰入額	3,983	3,266
賞与引当金繰入額	8,349	11,784
その他	460,465	550,566
販売費及び一般管理費合計	2,513,959	3,153,424
営業利益	460,220	542,537
営業外収益		
受取利息	5,175	6,740
為替差益	17,905	28,750
退会者未使用課金収益	15,945	11,841
その他	0	0
営業外収益合計	39,026	47,332
営業外費用		
自己株式取得費用	—	183
営業外費用合計	—	183
経常利益	499,247	589,687
税引前四半期純利益	499,247	589,687
法人税、住民税及び事業税	186,315	210,794
法人税等調整額	952	340
法人税等合計	187,268	211,135
四半期純利益	311,979	378,552

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。